

佐賀県高等学校 P T A 新聞

発行 佐賀県高等学校PTA連合会
佐賀市南佐賀3-11-15
(佐賀県立佐賀高等学校内)
電話 0952(29)2573
F A X 0952(26)5435
印刷 大同印刷株式会社

新年のご挨拶



会長 西岡 豊

新年明けましておめでとうご
ざいます。令和7年の始まりを
迎え、皆さまのご健康とご多幸
を心よりお祈り申し上げます。
今年も佐賀県高等学校PTA連
合会(高P連)は、子どもたち
の健全な成長と豊かな教育環境
の実現に向けて、全力で取り組
んでまいります。

さて、昨今の急速な社会の変
化により、多くの教育課題が生
まれていきます。例えば、SNS
の普及に伴うネット上のいじめ
やトラブル、闇バイト問題、そ
して生徒のメンタルヘルスの問
題などがあります。これらの課
題は、学校だけでなく家庭や地
域社会全体で解決していく必要
があると思います。

また、闇バイト問題に対しては、
子どもたちが危険な仕事に手を
染めないよう、職業倫理や法的
リスクについての教育が重要と
考えます。PTAにおいても、

子どもたちに健全な働き方を伝
えるための講座やカウンセリン
グの実施などの取組を保護者や
教職員と協力し推進していくこ
とも必要ではないでしょうか。

さらに、不登校を始めとする
生徒のメンタルヘルスの問題に
対しては、学校カウンセラーの
活用やメンタルヘルスに関する
啓発活動の推進など、保護者や
教職員が生徒の悩みや不安に寄
り添えるよう、情報提供や相談
体制の充実を図る必要があります。
PTAも学校とともに生徒
たちの心の健康を守るためのサ
ポート体制を整え、子どもたち
が安心して過ごせる環境を築い
ていかなければいけないと考え
ます。

こうした教育課題に対処して
いくためには、保護者が学びの
姿勢を持つことが、今後の学校
づくりにおいて重要であると思
います。保護者は教育課題から
目を背けることなく、常にアッ
プデートした情報を知ることが
重要であり、PTAはそうした
学びの場であることも認識して
いただきたいと思います。保
護者も生徒とともに学び、成
長することで、子どもたちの教
育環境はより豊かになるのでは
ないでしょうか。

これからの1年も、佐賀県の
子どもたちが健やかに成長し、
その才能を存分に発揮できるよ
う、皆さまとともに取り組んで
まいります。どうぞ本年もご理
解と協力を賜りますよう、心
よりお願い申し上げます。

三神地区

当番校 神埼高校

令和6年12月6日に三神地区
連絡協議会指導者研修会を実施
しました。佐賀県高等学校
PTA連合会副会長の森田様
にご臨席賜り、最初に佐賀子ども
支援の輪・佐賀子どもシエ
ルター「ばるーん」施設長松隈智
子先生に「SNSトラブルの現
状と課題」スマホ時代を生きて

佐城地区

当番校 多久高校

令和6年11月6日、令和6年
度佐高P連佐城地区研修会を多
久市中央公民館大ホールにて開
催しました。来賓として、学校
教育課特別活動担当係長松本明
子様、本連合会会長西岡豊様本
連合副会長森田徹様、事務局長
牛島徹様を
お迎えし、
佐城地区各
校から保護
者・関係職
員90名が出
席されまし
た。



開会行事後は、特定非営利活
動法人被害者支援ネットワーク
佐賀VOIS副理事長伊藤
紀子様より「高校生を見守る私
たち出来ること」出されたS
OSを支えるために」という
演題でご講演をいただきました

る子ども達」と題してご講演
いただきました。ご自身の子育
てに関する話から、スマホネ
イティブ世代の子ども達に迫る
ネット上での危険についてお話
いただきました。ネット上での
出来事は保護者には見えにくく
被害にあっても相談しづら
い状況だと、子どもが隠してし
まうことが多いそうです。私た
ち大人が日頃から子ども達の様
子をよく観察すること、家庭内
でのスマホ利用のルール作り
に関して、大人が一方的に行うの
ではなく子どもと一緒に考えて
決めること、そして何より、大



人がSNSについての知識を深
めていくことが大切であると改
めて再認識できました。これを
契機に、ぜひ家庭内でスマホや
SNSの利用について話題に挙
げていただければと思います。
その後、役員の皆様で高P連
の九州大会、全国大会の情報共
有、来年度の事業に関する話し
合いなどを行いました。多くの
方々に参加いただき、各学校の
取り組みや
三神地区全
体での取り
組みなどに
ついて活発
に意見交換
をすることが
でき、実
り多い研修
会となりました。



ていただきました。

伊藤様の講演では、世界的にみ
ても日本の高校生たちは大人た
ちが悩みについての相談を投げ
かけても、なかなか悩みを打ち
明けてくれないのが現実で、日
常の会話などから思春期のこ
どもの悩みのサインを読み取るこ
とが大切ということを長年のス
クールカウンセラーとしての経
験をもとに話していただきました。
今回の講演を聞き、不登校
気味の生徒がいて、これからの
対応について悩んでいたところ
に、伊藤先生の講話は大変参考
になったという感想もありまし
た。

この施
設を利用
し、世界
に通用す
る選手の
育成に役
立ててほ
しいもの
です。



お知らせ
来年度の佐高P連「会費」及
び全国高P連賠償責任補償制度
の「掛金」は今年度と同じです。
○佐高P連通常総会
6月6日(金) 14時
「グランデはぐくれ」
○九州P連大会「沖繩大会」
6月19日(木)〜20日(金)
「沖繩コンベンションセンター」
○全国高P連大会「三重大会」
8月20日(水)〜22日(金)
「津市産業・スポーツセンター」

佐賀県高等学校PTA連合会 中学生・高校生総合保障制度のお知らせ
中学生・高校生総合保障制度 (こども総合保険 + 自転車総合保険)
お子さまの「ケガ」「トラブル被害」やご家族を含む「個人賠償責任」などを補償します。
この制度の詳細な内容はこちらから確認いただけます。
AIG損害保険株式会社「お子さまのための総合保障制度」<https://riskfinder.jp/school/>
※保障制度の内容につきましては、取扱代理店へお問い合わせください。
○制度に関する問合せ先：取扱代理店 株式会社コーリン(佐賀県高等学校PTA連合会保障制度事務局) TEL: 0120-228-553(通話料無料) [受付時間: 平日午前9時〜午後5時 土日祝日年末年始を除く]
○制度引受保険会社: AIG損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社 [令和7年度: S-250274(2025-12)]

春
少し前だが「ドライブ・マイ・
カー」という村上春樹原作の映
画が上演された。同じころ
「silent」という難聴を
患う恋人と手話で交流する物語
がテレビドラマで放映された。
当時、ともに静かなブームに
なったと思う。
現代は「タイムタイムパフォー
マンス」という言葉が満ち溢し、
若者を中心に短時間で満足感が
得られるコンテンツが重宝され
る傾向にある。世の中には膨大
な情報があり、いちいちゆっく
り見ていられないという現状も
ある。私もトレッドミルで走り
ながら講演動画を1.2倍速で
視聴するなんてことはザラだ。
ところで、最近「本を読んだ
こと」がない32歳がはじめて本を
読む「かまど、みくしのしんぞ」と
いう本を読んだ。私は国語の教
員なので本や文字を読むことを
生業としてきた。もちろん読書
が苦手な嫌いな生徒たちにもた
くさん接してきた。しかし、こ
の本を読んで「目から鱗」だった。
一行ごとに語られる感想やリ
アクションがとても斬新で新鮮
だった。「こんなふうな読み方
があるんだ。もしかすると自分
はこれまで本当のところ読書
する(本を愉しむ)ことができて
いなかったのではないか」。そ
う思った。

冒頭の映画は上映2時間59分
長くて心配したが、映画館で見
た後、ネット配信で繰り返し観
た。テレビドラマの方は全体と
して会話が少なく静かな展開
だった。それだけにじっくりと
見入った。
時間をかけて作品を正面から
受け止める。それが人生を豊か
にし、タイプ以上の財産を残し
てくれるような気がする。そう
いえば学生時代、大好きな村上
春樹の小説を1ページ1ページ
なめるように読んでいた。早く
読み終わるのがもったいなかった。
ホンモノは時間がかかる。教
育、子育ても同じかもしれない。
武雄高等学校
校長 下村 昌弘

本校の重点目標に伝える生徒

佐賀県立伊万里実業高等学校

佐賀県立伊万里実業高等学校は、平成31年4月に佐賀県立伊万里農林高等学校と佐賀県立伊万里商業高等学校が再編統合されて開校された学校です。今年度の卒業生は4期生となります。

今年度の本校の重点目標は①「農」と「商」の学びを生かして、地域とともに歩み地域産業に貢献できる人材を育成する。②農業科と商業科併置の特徴を生かし、6次産業化に対応した教育活動を推進する。③心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ専門的知識・技術を生かし社会に貢献し



多久高校教育後援会活動の流れは4月の新旧役員会(監査)を皮切りに総会前に行う評議員会、そして、開校記念日行事としての新入生歓迎遠足(多久聖廟)、5月の教育後援会総会と続く。

2学期に入ると生徒達の気持ちの切替えのためJR中多久駅から本校までの通学路での挨拶登校態度、服装、頭髪などの指導を保護者に行ってもらおう。多



開校記念日の出発

久工業高校時代からの伝統的な行事となっている。そして、登校指導が終わると2日間、「多久高祭」が文化祭・体育祭と続けて実施される。今年も教育後援会の役員が中心になって、レトロのカレーの販売を文化祭で行い、行列ができるほどの盛況であった。

更に2学期後半には評議員の企業・大学への視察研修、高P連指導者研修会等への参加。そ



登校指導

愛される人材を育成する。となつていきます。

今年度も生徒が互いに相手のキャンパスに移動して交流学習を経験することで、それぞれのキャンパスの学びを理解するとともに、それぞれの専門学習に対する興味や関心を高めています。

また、6次産業化に対応した教育として毎週1日、7限目を設けて「i6」の授業をしています。「i6」は、「いまりん6次化」を意味します。地域の産業(1次産業から3次産業まで)を包括する授業で農林キャンパスと商業キャンパスを融合させて学問の深みを増す取り組みで



商業科の生徒と野菜の種まき

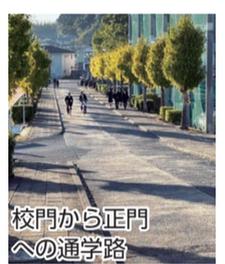
学校の良きパートナーとしての教育後援会活動

佐賀県立多久高等学校

して3学期は「丹丘の里」という広報紙を発行。2月の最終登校日には「3年生を送る会」を開催し、役員と3年生の評議員を中心に、朝からおにぎり用ご飯の炊き出しを行い、みそ、野菜、いも類を豪快に炊き込み200名分の豚汁を作る。

生徒達は3年間の思い出を語り豚汁に舌鼓を打つ。

このように本校教育後援会は学校行事の際、良きパートナーとして生徒たちに寄り添って



校門から正門への通学路

す。その一つとして、地域の放置竹林問題の解決に向けて5学科(生物科学科・森林環境科・フードビジネス科・商業科・情報処理科)の特色を生かした6次化の視点で研究活動に取り組んでいます。

学校の自慢を一つします。生徒が自主的に、正門から校舎までの直線通路で、行き交う車などに対して、立ち止まり、振り返って頭を下げお辞儀をします。校舎内でも廊下ですれ違うと多くの生徒が朝の挨拶「おはようございます」と言ってお辞儀をしてくれます。来校される方々が挨拶が上手で居心地が良いと褒めてくださいます。



外部講師を迎え全クラスへ配信授業

鹿藤地区

当番校 嬉野高校

今年度は例年の指導者研修会の形を変えて行うことになった。第1回会議で、これまで行ってきた講演会を準備する案の他に、「もっと新しい研修の形」を求める意見があり、盛んに研修会に対する思いや定義の意見交換があった。その中で出た「参加したくなる会」や「お得な体験」といった研修会への前向きな意見を集約し、以下のような研修会を実施するに至った。

今回の研修を「大人の修学旅行」と題して、バスで企業訪問する研修会の企画を進めた。近隣の高校が毎年のように就職先としてお世話になっている東亜工機株式会社(鹿島市)と日本ハードメタル株式会社(武雄市)の2社に訪問することとなった。研修会は令和6年11月27日の開催で、天候は雨と晴れ間が交互にやってくる天気であった。バスの中で鹿島藤津地区会長の小林由枝会長からご挨拶をいただき、「ぜひ他校の保護者同士もお話を楽しい会にしましょう。」と和やかな雰囲気ですたーとすることができた。

唐松地区 当番校 唐津商業高校

令和6年12月6日、唐松地区PTA指導者研修会を、唐津市の高齢者ふれあい会館「りふれ」にて開催しました。佐賀県高等学校PTA連合会会長西岡豊様を来賓に迎え、66名の唐松地区のPTA等役員及び管理職、担当職員の参加がありました。

研修会では、まず唐松地区PTA本年度当番校の唐津商業高等学校校長中西裕一校長挨拶、来賓の佐賀県高等学校PTA連合会の西岡豊会長の挨拶がありました。次に、「やる気♡できる気♡になる魔法の言葉かけ」と題して、日本ペプブロー協会熊本潮美様に講演していただきました。講演では、ペプブローの重要性とその実践方法について詳しく説明されました。ペプブローとは、ポジティブな言葉を使って自己肯定感を高め、やる気を引き出すコミュニケーション手法です。具体的な次のポイントを強調されました。まず、やる気を引き出す言



講演の一場面

れ分野で日本や海外でもトップシェアを誇る会社で、大変技術力の高い仕事をされている。作業場の大きな金属素材や重機、または自動化した最新の機械の導入など参加者は目を奪われながら会社説明をしっかりと聞かされていた。また、どちらの企業も働き方や業務効率の改善などに取り組まれており、勤務体制の充実化にも感心されていた。企業側から保護者の企業訪問は初めてのケースなので、お子様のみならず会社のことを多くの人に伝えてほしいとお願いがあつた。

2社を訪問する間には昼食をはさみ、企業の感想やわが子に関する世間話など、終始会話が弾む会であった。当初の狙いであった「お得」「参加したくなる」「楽しい」研修会になったのではないだろうか。近年の県内企業PRの流れにのって、来年も充実した研修会になることを願う。

杵西地区

当番校 伊万里実業高校

杵西地区連絡協議会指導者研修会は、令和6年10月18日、伊万里市民センターでPTA関係の50名の参加者の下、佐賀県高等学校PTA連合会副会長 森田 徹様、佐賀県産業労働部産業人材課参事 岩本 憲政様を来賓に迎え開催しました。

講演の講師には、本校を卒業して弁護士になり活躍されている、百武 誠様(陶都みらい法律事務所 弁護士)にお願ひし、演題「SNSを利用したトラブルや詐欺の未然防止について」のテーマで講演をしていただきました。最近、頻発しているSNS関連の被害の状況とその対策について話をされ、参加者からも「疑われる怪しい電話が有ったけども、未然に防いだ」という経験談もあり、また、複数の質問

葉を使うことでチームの士気を高めることができる。また、自分自身を励ます言葉かけが、他者との関係をより良くし、楽しいコミュニケーションを生む。さらにペプブローを学ぶことで、言葉の力を再認識し、日常生活やスポーツ指導において効果的に活用する方法を知ることができる。熊本先生の講演は参加者にとって非常に充実した内容であり、参加者から「講演を受けて、自己肯定感が高まり、人にやさしく接することができそうだ。」とか「ペプブローを通じて、言葉を前向きに変換することの重要性を学び自分自身が元気になる。」といった肯



講演の一場面

もありました。質問内容としては、「子どもがSNS等を使っているんか」とか「学校での取り締まりや制限でどうにかしてもらえないか」等の発言が有りました。百武先生は、学校と家庭との意思の疎通を図ることや、該当する場面に遭遇したときには、直ぐに公の機関に相談するということを回答していただきました。また、怪しい電話番号は記録しておいて警察等に相談するといったアドバイスもいただきました。

その後の研修発表においては、佐賀県産業労働部産業人材課参事 岩本 憲政様から、今年度の就職・進学状況について就職状況等は売り手市場で就職率も良いということや、これからは状況の変化が予測しにくい個人々々のスキルアップが大切になるという話をいただきました。最後に、PTA連合会副会長 森田 徹様より、「これからも、PTA活動を活性化させ、子ども達の健全育成の一助として活動していきましょう。」と、会を結んでいただきました。

定期的な意見が多くありました。次に、事例発表として唐津西高校のPTAの活動報告についての発表、高P連全国大会について早稲田佐賀高校後援会から報告、高P連九州大会について唐津南高校PTAから報告がありました。

また、研修会後、懇親会も開催し、会員相互の親睦を深めることができ、有意義な研修会となりました。



講演の一場面